

「古い人を脱ぎ捨てる」

エフェソの信徒への手紙 4章22～24節

聖学院大学 人間福祉学部チャプレン・国際部長 佐野 正子

イースターおめでとうございます。今日はイースターエッグを持ってまいりました。このイースターエッグは手作りのものですが、卵の上と下に針で小さな穴を開けて、黄身と白身を出して洗って乾かしてから、絵を描いて作ります。卵に細かな絵がきれいに描かれているイースターエッグをプレゼントでいただきました。また段ボールの紙で作った大きな卵は、私が大学附属の幼稚園であるみどり幼稚園で、おとしのイースターの時に子どもたちにお話をするために作ったものです。卵の形に切った2枚の紙を合わせて、中からひよこが生まれるように作りました。子どもたちにお見せしたら、大喜びで人気の卵になりました。

イギリスではイースターの季節になりますと、町じゅうにイースターエッグが飾られます。お菓子のお店ではいろいろな大きさのチョコレートの卵も売られています。私もイギリスに住んでいた時には、とても大きなチョコレートの卵を売っていたので、小さな息子と何日もかけていただこうかなと思って買ったことがあります。

イースターは日本語では復活祭とも呼ばれています。イースターは、キリスト教ではクリスマスと並んでとても大切にしているお祭りです。クリスマスは、主イエス・キリストのお誕生をお祝いする日ですが、イースターは、十字架につけられて死なれたイエスさまが、3日目に復活されたことを記念するお祭りです。復活といっても、私たちのように朽ちる肉体を持って蘇生したのではなく、霊のからだとしてよみがえられたイエスさまが、今は天の神さまのもとで、私たちを常に守り導いてくださっておられるというのが、キリスト教の信仰です。イースターは、死が人生の終わりではないことを示しています。人が亡くなることを召天、天に召されるとも書きますが、人は亡くなると朽ちて終わるのではなく、天の神さまのもとに召されて天の交わりの中に加えられると信じられています。

先ほどイースターエッグをお見せした時には、卵とイースターとはどのような関係があるのかと思われたかもしれません。ひよこは、卵の殻を打ち破って生まれてきますね。そのことが、死の殻を打ち破ってイエスさまが復活されたというイースターを象徴しているから、イースターエッグを飾るのです。新しい命が生まれるということは、とてもうれしいことです。皆さんも生まれてきた時には、ご両親が「生まれてきてくれてありがとう」と心から喜んで、皆さんの誕生を祝福されたことでしょう。

イースターが毎年春のこの時期にお祝いされることには意味があります。暗く寒い冬が終わり、春には一斉に草木が芽吹き、様々な花が咲き始めます。春は、新しい命で満ちあふれる季節です。昨年秋に、私もクロッカスとチューリップとムスカリとヒヤシンスの球根を植えてみました。冬の間、地面の奥深くに眠っていたかのような球根でしたが、春になって急に地面から芽が表れ出て、今は美しい花を咲かせてくれています。

今日の聖書の箇所には、「情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」とあります。私たち一人ひとりが、古い自分の殻を打ち破り、古い自分を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、新しい年度の歩みを始めたいと思います。新入生は高校生から大学生となり、在學生は一学年ずつ学年が上がりました。今は新しい年度の出発の時です。過去にとらわれることなく、新しく生まれ変わって、今日という日を一步一步未来に向かって歩みを進めていきたいと思います。復活されたイエスさまが、私たち一人ひとりに最も良い道を備えてくださって、常に守り導いてくださっておられます。古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、共に歩みを進めてまいりましょう。お祈りいたします。

恵み深い天の父なる神さま

本日はイエスさまの復活を記念して、共にイースター礼拝を守ることができましたことを感謝いたします。聖学院大学につらなるお一人おひとりの、新しい年度の歩みの上に、神さまの豊かな祝福をお与えくださいますようお願いいたします。私たちが「古き人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて」、聖学院大学での歩みを進めていくことができますようにお導きください。あなたの大きい恵みとお導きを感謝しつつ、このお祈りを主イエス・キリストのみ名によってみ前におさげいたします。アーメン。

2014年4月23日 聖学院大学 全学礼拝(イースター礼拝)